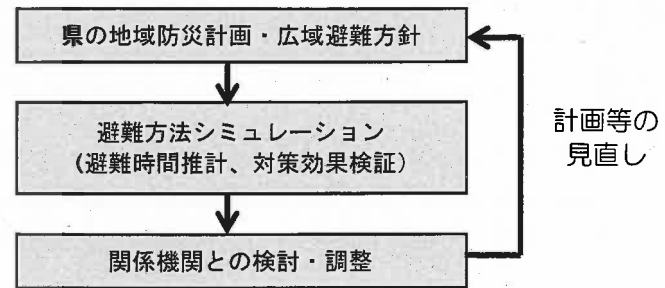


原子力災害に係る避難方法シミュレーションの目的・前提条件等

目的

原子力災害時に一時移転の可能性のある地域において定められた期間内に当該地域を離脱できるかどうかを推定すること、また、様々な避難対策を想定し、どの程度の時間短縮効果が期待できるかを把握するために実施。



前提条件

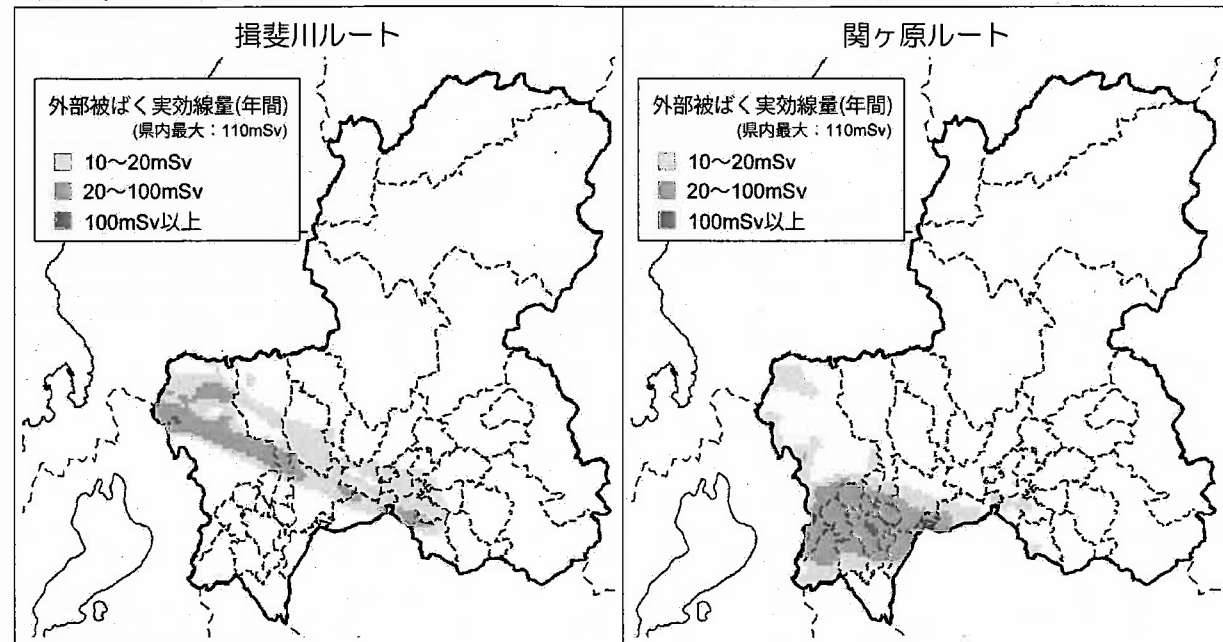
1. 対象とする原子力災害

本シミュレーションで対象とする原子力災害は敦賀発電所（日本原子力発電株式会社、福井県敦賀市明神町）における単独災害とする。

2. 前提となる被害想定

岐阜県が平成24年9月に公表した「放射性物質拡散シミュレーション」のうち、特に規模が大きかった以下の2ケースを想定する。

- ・ 揖斐川ルート（沈着した放射性物質による外部被ばく 各季節で線量が最大：春【ケース6】）
- ・ 関ヶ原ルート（沈着した放射性物質による外部被ばく 各季節で線量が最大：夏【ケース7】）



3. 本シミュレーションのシナリオ

避難期間は、原子力災害対策指針で定めるOIL2の一週間程度内の避難に対し2日間の余裕を見込み、5日間での避難を基本シナリオとし、複数の避難対策シナリオを用意する。

4. 推計される避難時間

本シミュレーションでは、避難対象地域の全住民が当該地域から離脱するまでの時間を推計する。

避難元

1. 避難対象地域

避難対象地域は、上記の2ケースにおいて、外部被ばく実効線量がOIL2と同程度となる年間20mSv以上の可能性が示された地域とする。（避難実施単位は、各市町村が想定した小学校区・地区とする。）

2. 避難対象地域の人口

- ・ 揖斐川ルート：168,725人（7市町）
- ・ 関ヶ原ルート：759,870人（19市町）

避難先

避難先は、放射性物質拡散シミュレーションで外部被ばく実効線量が年間10mSv未満となる地区とし、避難者は次の「目標ポイント」を目指して移動を行うこととする。

- ・ 避難先が自市町村内の場合は、避難元から最も近い交差点付近
- ・ 避難先が県内他市町村の場合は、各圏域の交通要所となる主要交差点付近

避難方法

1. 避難優先順位

- ①放射性物質拡散シミュレーションで外部被ばく実効線量が年間100mSv以上の可能性が示された地区から優先的に避難を開始させるものとする。
- ②放射性物質拡散シミュレーションで外部被ばく実効線量が年間20mSv以上100mSv未満の地区は、敦賀発電所から距離が近い地区から避難を開始させるものとする。

2. 目標ポイントの選択

避難者は、避難者収容可能人数に空きがある最寄りの目標ポイントを選択するものとする。避難者が県内の全ての目標ポイントの避難者収容可能人数を上回った場合は、最寄りの目標ポイントを選択するものとする。

3. 避難手段

避難者は自家用車を利用して避難するものとし、3人が1台の自家用車を共有して世帯単位で避難することを想定する。また、避難行動要支援者（病院入院患者及び社会福祉施設入所者）は、バスを優先利用して小学校区・地区内の一時集結所から避難するものとし、バス1台当たりの乗車可能人数は20人（避難行動要支援者用）とする。

その他の条件

1. 自主避難者

避難指示を待たずに自発的に避難を開始する者を交通負荷として設定する。東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（国会事故調）のアンケート結果から、自主避難率は37.7%とする。

- ・ 揖斐川ルート：63,607人（21,213台）
- ・ 関ヶ原ルート：286,472人（95,527台）

2. 滋賀県からの避難者

滋賀県から流入する避難者を交通負荷として設定する。

- ・ 揖斐川ルート：2,900人（967台）（滋賀県旧木之本町からの流入者）
- ・ 関ヶ原ルート：6,900人（2,300台）（滋賀県旧伊吹町、旧山東町からの流入者）

3. 背景交通

避難車両以外の通常の車両は避難者にとって交通負荷となるため、本シミュレーションにおいては、これらの車両を考慮した上で避難時間を推計する。（以下、これらの車両を背景交通と呼ぶ）ただし、避難対象地域内については、背景交通の発生は無いものとする。

4. 道路ネットワーク

本シミュレーションで使用する道路は、緊急輸送道路（1次～3次）のほか、高速自動車国道、一般国道、主要地方道、一般県道、広域農道、主な市町村道の中から避難時に使用される可能性が高い道路を抽出する。

基本データ

上記諸条件から、以下を基本データとしてシミュレーションを実施。

1. 自主避難者を除いた避難者数（避難車両台数）
 - ・ 揖斐川ルート：105,118人（35,052台）
 - ・ 関ヶ原ルート：473,398人（157,844台）

2. 要支援者数（必要なバス車両台数）

- ・ 揖斐川ルート：4,999人（258台）
- ・ 関ヶ原ルート：15,035人（789台）

※社会福祉施設定員数及び医療施設病床数より算出